

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30 年 9 月 8 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492100031		
法人名	口和福祉会		
事業所名	グループホーム口和		
所在地	庄原市口和町永田413番地 (電話) 0824-89-2700		
自己評価作成日	平成30年7月30日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3492100031-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年8月23日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

グループホーム口和ではお一人お一人のこれまでの生活や思いを大事にし、ご本人のしたい気持ちを大切に自己実現出来るよう自立支援を目指した個別ケアを提供しています。「小さな気遣いが、大きな安心へ」をモットーに入居者の皆様との日々の会話、言動や様子からニーズを見つけ出しその都度職員間でミーティングを行ない迅速で臨機応変な支援を行なっています。日課活動では食事・おやつの時間以外はお一人お一人のペースを大事にしています。保育所・小・中学校や地元の行事参加・散歩・買い物などを通して地域交流に取り組んでいます。入居者の皆様が心穏やかに暮らしてもらえるようチームケアを頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

のどかな地域環境のもと、法人内での事業所が多数展開されている併設の事業所である。「老後は明るく楽しく」「家族的な雰囲気の中で、小さな気遣いが大きな安心へ」を法人の介護理念として取り組み、利用者とのコミュニケーションを大事にし、表情やその時の様子、利用者同士の会話などから細かな気配りを行き届かせ、思いや意向を把握し、気づきノートという書式で職員間で共有しケアに反映している。歩けなくならないようにとの思いから散歩にも力を入れている。日々の散歩から近所の方との会話や交流、繋がり形成となっている。地域の保育所や小学校との交流、行事などイベントへの参加も定例となっているなど地域に根差した事業所である。管理者、職員のコミュニケーションも気軽にとれる風通しの良い職場風土が形成されている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践にっ なげている。	「小さな気遣いが大きな安心へ」をホーム内の壁に張り出して常に意識してケアに取り組んでいる。理念に基づいた事業目標を立てて毎月の行事、日々の活動に活かしている。	「家族的な雰囲気の中で、小さな気遣いが大きな安心へ」という介護方針を管理者・職員は共有し、普段より職員はコミュニケーションを大事にする姿勢にて取り組んでいる。気づきノートを活用、表情や様子の把握、利用者同士の会話をキャッチするなど切れ目のない支援を実践をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の保育所・小学校の運動会やイベントへの参加や交流を行なっている。地元の商店で買い物をしたり、郵便局や医院を利用している。毎日の日課活動として散歩をして地域の方々と交流している。	地域の保育所や小学校との運動会、夏祭りに参加することなど地域との交流が恒例の取り組みとして定着している。地域の行事に参加もよくあり、買い物を市内で行うことで地元の知り合いに話しかけてもらったり、散歩での声掛けなど、なじみの交流が持てる機会にもなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症ケア専門士を配置して地域の相談窓口になるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	行政の担当者、消防署、警察、民生委員の方々に参加して頂きいろいろな立場の方々から助言を頂いて取り組んでいる。	行政担当者や民政委員、地域住民などの参加があり、J A婦人部と昼食を交えての開催や小学生との交流を持った形など形式を柔軟に行っている。避難訓練後に開催し、消防職員からの総括や火災以外の自然災害についての話など利用者・職員ともに理解を深めるなど、その時々での開催に特色を盛り込み実施している。	その時々で関係者の参加に偏りがみられる部分や、家族の参加が不十分な面も感じられるところがあり、今後、参加の周知に努め、家族や関係者との繋がり幅を広げることでより良い意見交換が交わされ、サービスに活かせる取り組みになるように期待する。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	月1回開催される地域ケア会議に出席し情報交換や関係機関との連携につとめている。	市の担当者とは必要に応じて確認し、関係づくりをしている。市や地域包括支援センター開催の研修に参加することや、月1回の市のグループホーム連絡協議会に参加し、相互に意見交換を行い、研修にも参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルを作成し今年度より身体拘束虐待予防委員会を発足し3ヵ月に一度会議を実施してケアを振り返り、法人内の研修にも参加して身体拘束について学びケアに活かしている。	事業所の指針、マニュアルを共有し取り組むことで、利用者それぞれの行動に対する判断や対処基準が明確になり、職員其々が利用者の様子を見てゆとりが持てるようになっている。利用者に安心して過ごしてもらえよう不安に対する対処や見守りを重視している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人内実施の研修会に参加して学んでいる。虐待に繋がるのではないかとと思われるケアや言動があれば職員で話し合うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度やかけはしを利用されている入居者の方がおられるので、後見人や担当者と連携を取り支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には利用者やご家族の表情や反応を見ながら、専門用語など難しい用語は分かりやすく説明するよう努めている。不安や疑問点はないか尋ねて、有る場合は納得頂けるまで丁寧に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々の関わりの中での会話から意見や要望をくみ取りケアプランにあげて実施している。ご家族からは面会時に心配事や意見や要望はないか尋ね、寄せて頂いたご意見などは会議で話し合い改善している。	家族からの要望の中で利用者の食事時間を三食ともずらし、30分の違いにて利用者自身に、生活にゆとりが生まれた例がある。普段の関わりや利用者同士の会話などを気づきノートで共有し、必要に応じその日のミーティングで変更もしている。家族からも面会や電話で確認している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	個々に面談したり、日々の業務の中や会議で意見や提案に耳を傾けサービスの向上に努めている。	面談は不定期にその都度行う形であるが、管理者も職員とのコミュニケーションをよく取るようにしており、職員からもよく意見が上る。話しやすい関係性が構築されており、スタッフの心配ごとは早くに不安の芽を摘み、穏やかに安心して業務が行えるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	給与、諸手当の見直しを実施する等、労働環境の整備に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人全体での職員研修を毎月実施し研修の機会を確保している。又、資格取得に伴う経費は全て施設が負担しスキルアップを推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	庄原市グループホーム連絡協議会に加入し職員研修等に参加している。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	面談の時本人とご家族からも話を聞き情報を得て入居後は独自の24Hシートを活用して本人の言動や様子から心身共に状態を把握しながら、日中と夜間の申し送りや情報を共有し必要な声掛けや傾聴、サポートをして信頼関係を築けるようにしている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ホームの見学をして頂きご家族のニーズに添える事添えない事を説明し、不安な事や要望にはその都度対応して安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所前の面談において本人とご家族のニーズをお聞きして必要なサービスを提供出来るか検討し、他のサービスが必要な場合は情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	畑での野菜作り、敷地内の草取りや掃き掃除等の環境整備、洗濯物を干す取り込むなどのいろいろな作業と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日常の生活の様子を面会時にお伝えし、必要な時は電話連絡して連携を取っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	他施設に入所の家族への面会支援、地元のかかりつけ医に受診する通院支援、友人や知人の方々に面会に来て頂いている。	美容師をしている友人が散髪に来てくれたり、家族の協力にて墓参りに行き外食をして戻るなどがある。ドライブで地元近所や家の前を通ったり、手紙やはがき、電話などを行う支援を通じてなじみの関係が途切れないようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日課の散歩のメンバーや食堂の席、役割の分担、レクリエーションの内容やゲーム、チームメンバーなど、利用者同士の人間関係に配慮して支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居され関連施設に入所された方に面会に行って話をしたり、御家族から相談がある場合は情報を提供している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりやご本人の暮らしの様子や会話から把握に努め、ご要望に応えられるようにしている。	日常の関わり中で、小さな仕草や表情を見ながらその都度細やかに気付けるようにしている。また、日々の気付きシートを使いながら情報共有を図り、利用者其々の思いを組めるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人や面会に来られるご家族、友人、知人の方々からこれまでの話を伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	独自の24Hシートを活用してこれまでの生活リズムを把握し、日々の様子や気づきはケース記録に記入している。主治医との連携。作業を工夫して一緒にしながら有する力を見極め把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人の意向と主治医や御家族との連携を踏まえて、その人らしい暮らしをして頂けるように職員全員で24Hシートを作成共有してプランに反映させたり、変更が必要な状況になると直ちにミーティングを行ない見直しをしている。	24時間シートという事業所独自の書式にて利用者の様子を的確に把握しプランに反映させている。定期的なモニタリングを行うほか、普段の中で自然と利用者のことが議題に上がりミーティングで見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日課内容、ケア、気づきなど具体的に個別のケース記録に記入して職員間で共有し実践して、プランの見直しが必要な時に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ニーズに応じて実践可能な事はケアプランに上げて取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ホーム周辺への散歩、通院、買い物や地域のイベントに参加して繋がりを持っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人とご家族の意向に添いかかりつけ医と連携を取り、相談・指示のもと月1回の通院援助をしている。	利用者、家族の意向を聞き今までのかかりつけ医に受診を継続している。協力医院や専門医院にも受診の通院支援を行っている。敷地内の法人事業所と連携した看護体制もあり、安心して医療が受けれるようになっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	併設関連施設の看護師と連携し、緊急時等に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の状態を家族と医療機関から聞き取りをして、退院後も安心して生活が出来るように援助している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合はご本人、家族、主治医と施設が話し合いを持ち適切な対応をする事としている。	看取りはしない方針であり、契約時に説明している。状態が低下や悪化してきたときは、病院や法人内の特養施設などと連携し、状態に合わせた対応ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	喉詰まり時の応急処置の実習を毎年職員全員行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災避難訓練を年2回実施。他部署や地域からの協力体制を整えている。停電に備えて発電機を常備している。	避難訓練には法人事業所と合同で開催する他、地域の方の参加もあり協力体制の構築ができています。備蓄やマニュアルも見直し作成を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	他人に聞かれたくないプライバシーや羞恥心に関わる話などは人前で話さないように声量や場所など配慮して対応している。	トイレの声掛けも排泄を直に伝えず「ちょっと一緒に行きましょう」と促すなど、思いや羞恥心を大切にされた言葉かけを選び、周囲に配慮し実施している。利用者の配偶者が亡くなられた時も本人の様子や状況を加味し、精神面を熟考して対応するなど、個人を尊重した取り組みの実践がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	お一人お一人の生活リズムや趣味、希望を把握して適切な声掛け、選択・決定はご本人にして頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日課は無理強いせずに、その日その時のご本人のペースや気持ちを優先して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	散髪時は髪の長さの希望を美容師に伝えたり、ご本人が使用されている化粧品はご家族に購入して頂き使用してもらっている。服装は季節に応じたコーディネートを提案している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	嗜好調査を定期的実施している。誕生日はご本人の好きな物、食べたいものをメニューにしている。下ごしらえ、盛りつけ、準備、配膳、下膳、洗い物など役割分担して出来る事をして頂いている。	日常の会話から意向を聞き取りメニューに盛り込むことや、買い物時に変更して作るなど柔軟な対応があり、利用者には調理のしたごしらえや味をみてもらう、洗い物など役割化しており、意欲的な参加を引き出し実施している。月に1回喫茶会を行い季節のお菓子や好きな飲み物を選び過ごす時間は好評である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	制限(量・糖分・塩分)が必要な方は主治医より指示をもらい対応している。個別で1日に必要な水分を摂取出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後声かけをして歯磨きをしてもらい、口腔内に異常がある場合は歯科受診している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	独自の24Hシートで排泄の間隔を把握して適切なトイレ誘導の声掛けを実施している。	日々の生活で歩くことを基本として散歩などしっかり行うことで、歩行が不安定な方も下肢筋力がつき、トイレへ行くことにも好影響となっている。紙パンツの方が布パンツに変更した事例もある。24時間シートを活用し、個人の間隔や食事前など定時を含む声掛けを挟むことでその方に合わせた排泄支援を実現している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	起床時にコップ1杯の水分補給をして、刺激を促したり、体操や散歩など適度な運動を実施している。主治医と連携して下剤調整を行なっている。食物繊維を取り入れた食事を提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	湯の温度、入浴の順番、同性介助は希望に応じて実施している。	基本的には2日に1回入浴できるシステムがあり希望があれば毎日入浴できるようになっている。また、本人様に合うように個別の要望に応じた入浴剤を入れたり好みの温度調節も細かく行っている。季節によりゆずを入れ、香りを楽しむ工夫もされている。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	習慣がある方には昼寝をして頂 いている。消灯、就寝時間はお 一人一人に応じた見守りを実施 している。快適な温度で室温管 理している。眠剤服用者は主治 医と連携して薬の調整を行なっ ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	主治医、薬剤師、看護師と連 携して何の薬でどんな作用があ るか把握して様子観察しケース 記録に記入し職員全員周知して いる。変化がある時は直ちに受 診して服用中止、薬剤調整など Dr. の指示に従っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	日頃の関わりや会話から生活歴 や興味のある事を知り、お一人 お一人に合った役割（掃除・洗 濯干し・洗濯畳み・食事作り・ 配膳・下膳・畑仕事）を提供し 、嗜好調査アンケートを行ない 、好みや希望を把握している。 散歩・レクリエーション・喫茶 会・行事など楽しく過ごして頂 ける様支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。	日課の散歩コースは入居者の希 望に沿って決めている。墓参り はご家族の協力を得て実施。他 施設入所の家族への面会を支 援している。地域のお店へ買い 物に行っている。信仰のある方 は観音様参りをしている。	日々の散歩に力を入れており、 コースを決める事はなくその日 に行きたい所に出掛けようとし ている。その際近所の方に会い 近況の話をしながらなじみの 関係が継続できるようにしてい る。近くに農協があり細かなも のは散歩がてら、車で一緒に買 い物に出かけるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	かけはし利用の入居者の買い 物支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙を書かれる方は散歩時に投函してもらい、友人やご家族への電話連絡を支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	木の温もりを感じて頂ける構造で、共用のリビングの灯りは明るくして、作業をし易い環境を提供している。室温は適温管理実施。壁紙の張り絵や塗り絵は折々の季節の物を取り入れている。	リビングや廊下には季節を感じられるように入居者と一緒に作成したちぎり絵や塗り絵を掲示している。リビングにはソファを設置し、うたた寝ができるものを置いてゆったりとした生活が送れるように工夫されている。また、中庭にはイルミネーションやお花を植えるなど、楽しみのある工夫もされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者の人間関係に配慮した席替えを実施。テレビを観たり読書や新聞を読んだり、談話が出来るようソファを置いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に本人の使い慣れた布団や持ち物を持参してもらい使用して頂いている。	居室には、エアコン、ベッド、タンスを用意しているが、本人様のなじみの布団やタンス等があれば持ち込めるようになっている。居室には塗り絵や家族の写真が飾っており、本人が居心地良く過ごせる工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	屋内の動線上全てに手すりを設置している。浴室やトイレ、自室が分からない方は入口に名前を表示させて頂いている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム口和

作成日 平成30年10月9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点，課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議へのご家族の参加	ご家族に参加して頂ける運営推進会議の実施。	会議について周知する。欠席の場合は会議録を郵送するようにする。	半年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には，自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は，行を追加すること。